

商店街は「公共財」 住民参加の商店街振興は楽しみながら



第33回吹田のまちづくり・くらし・市政を考える研究会が行なわれました。午前中に全体会、午後から分科会が行なわれ、吹田民商は地域経済の分科会をさつき福祉会、新婦人吹田支部とともに担当しました。助言者には商店街振興と地域経済に詳しい和歌山大学経済学部部長の足立基浩教授に来ていただきました。

新婦人の池端さんから、10月に新婦人の会員と読者の約300名から集めた買い物アンケートについて報告されました。高齢の方も今はがんばって街で買い物をしている方が多く意外な結果でしたが、生協などの宅配を利用している実態や、手に入らない商品やサービスが身近で手に入らない、受けられないとの声もあつたと報告されました。

さつき福祉会の鴨井さんは、千里ニュータウン地域の近隣センターについて、鴨井さんが足を運んで撮影した写真と、吹田市の資料に基づいてスライドショーで、各近隣センターについて設立された当初からの歴史や、現在の営業している店舗の様子、共通している特徴について分かりやすく説明されました。

民商からは、以前吹田自治都市研究所の岩根良さんに報告していただいた経済センサスの分析、吹田市が行なった事業所実態調査、吹田民商のくらし・経営・健康の実態調査から現状の課題を報告。商店街・市場・近隣センターを公共財として特別な支援、開業・事業継承の相談や学習できる施設、吹田の地域ごとの特色に応じた施策を図るための地域担当職員の配置、全庁体制での吹田市産業振興条例の推進が必要であると報告しました。

助言者の足立先生からは、報告レポートへのコメントと先生が関わった宮崎や京都、地元和歌山の商店街振興の活動をミニ講座で紹介していただきながら、取り組むうえで大切なポイントをお話していただきました。

再度吹田民商からは常務理事の西尾さんが「期待されている地域経済振興の方向性」について報告。8点の中で特に商店街・市場の振興に重点を置いて報告し、公共財としての役割と存在の重要性、提案する施策、地域づくりのリーダー育成や大型店に求めるべき地域貢献について報告しました。

討論では足立先生が参加者の質問に丁寧に質問に答えられていました。イギリスの商店街振興施策としてまちづくり会社があり、タウンセンターマネージャーという職員が住民と商店街の橋渡しや、商店を公的なサポートで守っていると紹介していただきました。また参加者から、やる気に満ちた若い事業者が活躍できる仕組みが必要との意見がありました。

最後に足立先生からのまとめでは、吹田は何度か来たことがあるが、36万の人口と多くの大学があり、ニュータウンもあると羨ましいと感じる。マイナスに見えることを、プラスに見て考えることを大切にしたい。経済学の中でも、ものすごく難しいのが商店街・中小企業振興。計画を計画で終わらせることなくワークショップをやるなど、計画を進めていけば、行政の方に補助金があるからお金は後から持つてくることはできる。まちの個性とまちへの愛着が必要だが、自分がより大切と思っているのは愛着。まちづくり・商店街の振興は、楽しみを探して見つけていけば長続きできるとまとめていただきました。

会員さんの仕事紹介

越智ボーリング代表 越智 憲司さん

豊津町45・13・210 ☎090・81600・97800

正確で客観的なデータ提供がモットー



平成元年、越智さんは専門学校を卒業して、車の部品の輸出関係の会社に就職し、そこで15年間働きました。平成16年地質調査の仕事をしてきた知人から誘いを受け、違う仕事してみたいと考えていた矢先のことだったので、思い切って転職しました。地質調査は、オペレーターと助手の二人で仕事をします。最初の親方のもとで2年間、次の親方のもとで4年間、助手としてみっちり経験を積みました。この間の仕事の経験で、地質調査の仕事は自分に向いているということを実感しました。その頃親方から、独立してみないかとの声がかかり、ある程度自信がついてきていた時分だったので、独立の決意をしました。独立する時に、親方にごいぶんとお世話になりました。仕事の機械一式と車両を安い値段で譲っていただきました。得意先の紹介もきちんとやっていたことができました。本当に感謝しているそうです。

作業現場は関西一円と広範囲にわたっているため、仕事の間は心掛けています。まず事故を起こさないように作業は細心の注意で行っています。得意先との打ち合わせは入念に行い、丁寧な作業をすることによって正確で客観的なデータを提供できるよう努力しています。また従業員を採用したことで、従業員の生活を保障するため、仕事量の確保に力を入れていることと、福利厚生関係もきちんと行うことにしました。

民商は頼りになる存在です。独立してわからないことが多かったのですが、丁寧に教えてもらったことで不安が消えたことでした。商工新聞を配達したり、民商のビラを配布したりと民商運動にも積極的にかかわっています。

背筋をきちんと伸ばして、真っ直ぐ見つめて話す様子は、自分の仕事への確信に満ち溢れていました。

商工新聞は経営のヒント・くらしの知恵がいっぱい 毎週必ず届けます
会費集金は会員の心をあつめる活動です 毎月10日までには集めましょう